



並外れたパワーとパフォーマンスで要求度の高いプロジェクトに対応 8K UHD、4K 120fpsステレオなど様々な表示フォーマットオプション

最大のパワー、最大のストレージ

Baselight Xグレーディング/フィニッシング・システムは、最も要求度の高いプロジェクトのために卓越したパフォーマンスを提供します。Baselight Xは、多重レイヤーの複雑なグレーディングやエフェクト、複数のマット・チャンネルがあるような場合でも、リアルタイム再生と強力な処理を実現します。システムは大容量の超高速ストレージ・システムを持ち、内部の画像処理エンジンと直結しています。

4K HFR ステレオ3Dに完全対応

より高い解像度と画質に対する需要が高まるなか、Baselight Xのアーキテクチャーは、プロセスのすべての段階、すなわちオリジナルの素材から最終納品フォーマットにいたるまで、最大の解像度に対応できるように高められています。UltraHDビデオ出力は、すでにすべてのBaselightシステムで可能になっていますが、Baselight Xではフル4K 4:4:4のディスプレイ出力を60pのフレームレートで可能にしています。これにより、4K作品をネイティブの解像度で見ることができます。

オプションとして、Baselight Xには専用のHFR表示基板を1枚または2枚装着することができます。これらの基板にはDisplayPort 1.2がそれぞれ4ポートあり、デュアル装着の場合には4K 120Hzの同期したステレオ出力（システム出力は240fps@4K）が可能で、究極の没入型ステレオ3D体験を実現できます。



オプションのHFR表示基板により4K HFRステレオを提供

4K ステレオ3D

Baselight Xは複数の4Kストリームをリアルタイムで再生、プロセスする能力があり、これにより4Kステレオ3Dの作業であってもネイティブの解像度で対話的に作業を進めることができます。

Baselightのステレオ3Dツール群は、2D作業の容易さを3Dで実現しています。単一スタックのステレオ・タイムライン、カラー・マッチャー、完全に自動化されたステレオ・ジオメトリ修正ツールに加え、特殊な3Dディスプレイモードにも複数対応することにより、高速で負担の少ないステレオ3D作業を体験できます。

ユーザー・フレンドリーな究極のユーザーインターフェース

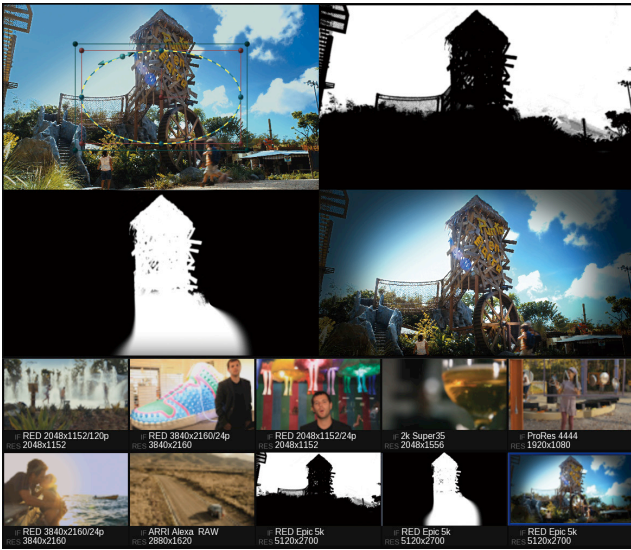
Baselightのユーザーインターフェースは、最大3台のモニターに展開することができ、広大なスペースに特定の作業に合わせて自由にツールを並べ、またその大きさを調整することができます。カスタマイズしたワークスペースはユーザーごとに保存することができ、必要に応じて呼び出すことができます。これにより、よりスムーズなワークフローを堪能できます。



3台のユーザーインターフェース表示

複数レイヤーと複数マット

複雑で特殊効果依存の高いDI作業やステレオ3Dアニメーションでは、複数のイメージ・トラックに加えて、しばしば複数のマット・シーケンスが必要になります。システムに統合された4チャンネルのRAID60ストレージの超高帯域と6式のプロセスGPUと1式のUIとスコープ表示のためのGPUの組み合わせにより、Baselight Xは、たとえばDPXやOpenEXRシーケンスのような非圧縮素材、ARRIRAW、ソニー、REDのようなネイティブRAWフォーマット素材を複数のストリームで再生することができます。グレーディングと特殊効果用マットは、独立したファイルから引き出すことも、メインの画像に複合された追加チャンネルから引き出すこともできます。

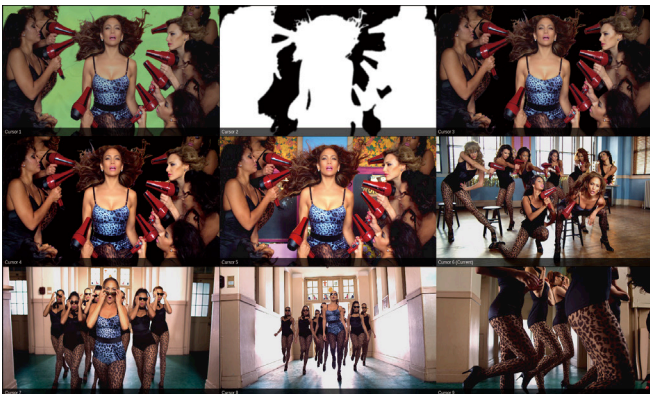


複数の外部マットを使ったマルチレイヤーのRAWフォーマットグレーディング

マルチ・ビューによる同時再生

Baselightシステムの大きな利点の一つとして、複数のイメージを同時に表示、再生、変更することができるという能力があります。最大9ウィンドウを同時に開くことができ、それぞれ異なる解像度、異なるカラースペースやフォーマットを持つことができます。同じシーンでも異なるプロジェクトでも、複数のショットを直接比較することができます。

Baselight XはBlackboard 2によってドライブされます。このFilmLightのフラッグシップのコントロール・サーフェスにより究極の操作性と柔軟性が実現されます。すべてのボタンは高解像度スクリーンになっており、現在のオペレーションに合わせてキートップの表示がダイナミックに変わります。



グリーン・スクリーンのオーバーレイを含めて表示するマルチ・ビュー機能

組み込まれたスコープ (波形・ベクトル表示)

すべての高精度スコープをフローティング・ウィンドウとして開くことも、あるいはUIにドックして見ることもできます。これにより画像コンテンツを正確にモニターし、最終の納品作品が規格内に収まっていることを確認できます。各スコープはどの組み合わせでも表示でき、ピック機能に連動して、カーソルで選択した映像の一点を正確にスコープ上に表示し、計測することができます。

統合されたマルチチャンネル・オーディオ

Baselight Xは最大16チャンネルのデジタル・サウンドをモニターすることができます。すなわち、完全なサラウンド音声をモニターしながら、グレーディング環境から離れることなく作業を継続できます。オーディオ・ステムのサポート、基本的なレベル制御、同期ツール、タイムラインのオーディオ波形モニターにより、音声と映像を合わせた完全なプレビューが実現されます。

総合的で最善のツール群

Baselightのソフトウェアとユーザー・インターフェースは何年にもわたって改善が重ねられ、カリリストにパワフルで総合的な、容易で使って楽しいツールを提供してきました。広範囲の柔軟で直感的なコントロールにより、ユーザーは完全に自由に、複雑なルックを最小限の努力で実現できます。ひとつの目的のために複数の異なる方法の中から選択することができます。ユーザー自身のスタイルを守りつづけることができます。映像と特殊効果を合成する際に、補助的なツール群から複数の要素を組み合わせることができ、そこに制限は何もありません。



Blackboard 2のグレーディング・コントロール・サーフェス

比類のないカラースペース・マネージメント

Truelightカラースペースは、高速で正確な、高いダイナミックレンジを維持したネイティブのフローティング・ポイントGPU機能によってカラースペース変換を実現しています。

LUTやTruelightプロファイルを必要とせずカラースペース変換ができますが、もちろん、LUTやプロファイル使うこともできます。どちらの方法を選択しても、Baselightは常に最終納品物のプレビューを最大限正確に行うことを約束します。

知能を持ったストレージ

Baselight Xは、160TB、320TBまたは480TBの容量を持つ専用の広帯域ディスクシステムを内蔵し、5ギガバイト/秒のリード・ライトの性能を標準的なXFSファイル・システムにより実現しています。ストレージは、4セットの12ドライブからなる、専用RAIDコントローラーに制御されたRAID 6を構築しています。

RAID 60スタイルの構成が、このハードウェアの上位にあります。FilmLightが開発したCRAB (Constant Rate Allocated Blocks) と呼ばれるソフトウェアRAIDで、ひとつのセットのディスク外周部の高速ブロックと、もうひとつのセットのディスク内周部の低速ブロックを組み合わせることにより、一定の速度を維持しています。

この独自の定速デバイスの上位には、XFSファイル・システムがあり、FilmLightのIOサブシステムにより、連続的でフラグメントのない状態を維持しています。詳しくはFLUX Storeのデータシートをご覧ください。

Generation VI/VIIのBaselight TWOからのアップグレード

Baselight Xのマスター・ユニットはGeneration VI/VIIのBaselight TWOシステムを基本にしていますので、最小限のコストでBaselight Xにアップグレードすることができます。

- » レンダリングに使用可能なGPUの数が2倍に
- » ディスクのIOパフォーマンスが2倍に
- » ストレージ容量が2倍に
- » PCI 3.0 x16スロットにはオプションカードの追加が可能

アップグレードについては、FilmLightの担当者にお問い合わせください。



ユーザー・フレンドリーな診断ツール群



特別仕様のストレージとプロセスハードウェア

共同ワークフロー

Baselight Xは、通常20Gbpsのイーサネットをインストールしています。これにより、他のBaselightシステムとCloudネットワークによって統合することができます。プロジェクトは複数のBaselightユーザーと共有することができ、メディアは、システム間でリアルタイムに流れます。標準的なネットワーク・インターフェースにより、Baselight以外の他のシステムとも容易に接続することが可能になっています。

高性能な統合ストレージによって、複数のユーザーが同一のフッターに同時にアクセスすることができます。たとえば、Baselight ASSISTやBaselight ONEといった二次的なシステムから、レンダリングやコンフォームなどの作業をバックグラウンドで実行することができます。

EDLやメディア・フォーマットの総合的な対応によって、Baselightはポストプロダクションのワークフローの中にシームレスに統合することができます。AvidやFinal Cut Pro 7との間でプロジェクトの直接交換が可能で、Avid、Final Cut Pro 7、NUKEといったプラットフォームで走るBaselight Editionsソフトウェアとの間でもプロジェクトの互換性があります。

統合されたシステム・マネージメント

マルチRAID、マルチGPUのBaselight Xシステムの性能を最大限にするために、内部メカニズムは、システム内の個々のコンポーネントをモニターし、最適化するように設計されています。

スムーズでトラブル・フリーのシステム運用のためにユーザー・フレンドリーなツール群として、自動化された起動と終了から完全な自己診断機能とシステム管理ユーティリティまで、必要なツールが提供されます。

サポートとトレーニング

何年にもわたって、顧客や業界のメンバーと親密な協力関係を築くことにより、FilmLightは強力なフレンドリーなユーザー・コミュニティを構築してきました。FilmLightのカスタマー・サポートはグローバルです。ユーザーは電話とメールによって連絡ができ、世界中のプロダクト・エンジニアやスペシャリストに直接コンタクトすることができます。

FilmLightは完全なトレーニングやインストレーション・サービスを提供するだけでなく、豊富な経験と知識を持ったサポート・チームによって、エキスパートの助言やコンサルティング・サービスをすべての顧客に提供しています。

主な機能

- › 統合された80TBまたは160TBのキャッシュ保護RAID 60ストレージ
- › 7式のGPUによる最大のパワーとパフォーマンス
- › Blackboard 2付属。Slateおよび他のコントロール・サーフェスにも対応 (Avid Artist Color、Tangent WaveとElementパネル)
- › 独立したユーザー・インターフェース用ホスト・プロセッサにより最大3式のUIディスプレイが可能
- › デジタル・カメラのRAWフッターをタイムラインに直接置くことで、トランスコードなしに再生・グレーディングが可能
- › ネイティブなカメラフォーマットを含むすべての解像度とフォーマットを同一のタイムラインで混ぜて使うことが可能
- › ビデオ出力ハードウェアは、SD、HD、2Kそして4Kの各解像度で、フル10ビット4:2:2または4:4:4、60pまでのフレームレートでの再生に対応。ステレオ3D対応
- › HDMI 2.0b出力の搭載により、UltraHD対応のモニターで4K/UHD表示が可能。UltraHDモニタリングをより身近に
- › 無制限のGPUによるインサイドとアウトサイドのグレーディング、無制限のソフトエッジ・ベジエ・シェープ
- › 直感的なRGBとYCrCb制御のグレーディング、RGB/HSLカーブと進化したHue-Shift機能
- › 内蔵された高精度スコープとヒストグラム
- › 自動バックグラウンド・レンダリングと高速ディスク・キャッシュによるリアルタイム再生
- › 高速で正確な、ポイントまたはエリアベースのトラッキングによる、シェープの追尾と映像のスタビライズ
- › Truelightカラースペースによる最も正確なカラースペース変換
- › ショット単位またはシーン単位のマルチチャンネルのオーディオ・モニタリング
- › 高速Cloudネットワークによる、他のBaselightシステムまたはプラットフォームとのプロジェクトの直接交換
- › PCI 3.0 x16の空きスロットにはSAN接続のためのHBA、DV5ビデオ入出力基板、RED Rocket Xなどを実装可能

- › FilmLight独自のBLGフォーマットによるグレーディング情報のインポートとエクスポート
- › BaselightとAvid/FCP編集システムとの間で拡張されたAAF/XMLとネイティブ・メディアによる双方向直接プロジェクト交換
- › Daylight、FLIP、Baselight EditionなどFilmLightシステムとの完全な互換性と他のシステムやワークフローとの容易な統合

HFRオプション

- › 第一のHFR表示基板によりDisplayPort 1.2出力を4ポート (ただし、PCI 3.0 x16の空きスロットが必要)
- › 第二のHFR表示基板によりDisplayPort 1.2出力を合計8ポート実装可能 (第一のHFR表示基板と合わせて。ただし、追加のPCI 3.0 x16の空きスロットが合計2スロット必要)
- › HFR表示基板を同期して使用する場合、同期基板が必要 (PCI 3.0 x16の空きスロットは不要)
- › HFR用のオーディオのためにSDI表示基板 (SDI、HDMI、AES/EBUオーディオ対応) を残しておく必要があります。HFRモードではSDI重畳オーディオだけが可能で、その場合、SDIのビデオはブラックになります (ただし、PCI 2.0 x8の空きスロットが必要)
- › 最大120fpsの4K RGBモノまたは120fpsの4K YCrCbステレオに対応

12G-SDIオプション

- › すべての標準的な出力フォーマットに加えて、8KまたはHFRの出力に対応。
- › 4 x 12G-SDIによる8K 60P
- › 4 x 12G-SDIによる4K 120Pステレオ
- › DCI 8K

主要諸元

マスター・ユニット

本体 5U 19" ラックマウント
 寸法 (WxHxD) = 482x220x721mm
 総重量 = 50kg
 消費電力 = 100-240V, 14A (Max @ 110V)
 熱量 = 2kW (6824 BTU/h)

補助ユニット

本体 5U 19" ラックマウント
 寸法 (WxHxD) = 482x220x721mm
 総重量 = 50kg
 消費電力 = 100-240V, 14A (Max @ 110V)
 熱量 = 2kW (6824 BTU/h)

ユーザー・インターフェース・ホストPC

寸法 (WxDxH) = 216x216x58mm
 消費電力 = 100-240V, 5A (Max @ 110V)

Head Office & EMEA

London, UK
 t: +44.20.7292.0400

Australia

Sydney
 t: +61.2.8746.0602

Germany

Munich
 t: +49.89.323.09485

Mexico

Mexico City
 t: +52(1)55.5165.2132

Thailand

Bangkok
 t: +66.891.259.009

Japan

Tokyo
 t: +81.3.6801.6280

China

Beijing
 t: +86.139.1073.7940

India

Mumbai
 t: +91.9819.426.677

Singapore

Singapore
 t: +65.9670.3283

USA

Los Angeles
 t: +1.323.785.1630

www.filmlight.ltd.uk

